

地域と共に創るまちづくりプラン

(地域活性化計画・改訂版)

Koriyama



Yoshida



Matsumoto



Sakurajima



Kiire



鹿児島市

(目次)

I	総論	1
1	策定の背景	
(1)	本市の特性	1
(2)	合併地域の特性	1
(3)	合併地域を取り巻く現状	2
①	少子高齢化の進行による人口減少	2
②	新型コロナウイルス感染症拡大による社会の変化	3
2	策定の主旨	4
3	事業の展開	4
4	位置づけ	4
5	進捗状況の管理	5
6	計画期間	5
7	SDGsとの関連性	5
8	庁内関係課との連携	5
II	各地域のプラン	6
	吉田地域	6
	桜島地域	12
	喜入地域	18
	松元地域	24
	郡山地域	30
III	連携事業	36
	資料編	37



リキニョン



マルニョン



メガニョン



ベビニョン

マグマシティPRキャラクター「火山の妖精“マグニョン”」

Ⅱ 各地域のプラン

桜島地域



桜島地域

1 管内の現状

(1) 沿革

桜島地域は、本市の東部に位置し、中心部から錦江湾を隔てて約４キロメートルの近距離にあり、地域内のほとんどが溶岩原、山林及び原野で、住宅地は海岸線に沿って帯状に続いています。霧島錦江湾国立公園と県の名勝に指定されており、自然海岸や溶岩原などの独自の貴重な自然環境や景観資源を有しています。

また、大隅半島と陸続きになった大正３年の噴火など、現在も活発に噴火活動が続けており、住民は火山と共存しながら生活しています。

明治２２年の市制町村制の実施に伴い、桜島郷が西桜島村と東桜島村に分かれ、東桜島村は昭和２５年１０月に鹿児島市と合併しました。また、西桜島村は昭和４８年５月の町制施行により桜島町に改称し、平成１６年１１月１日に吉田町、喜入町、松元町及び郡山町とともに鹿児島市と合併しました。

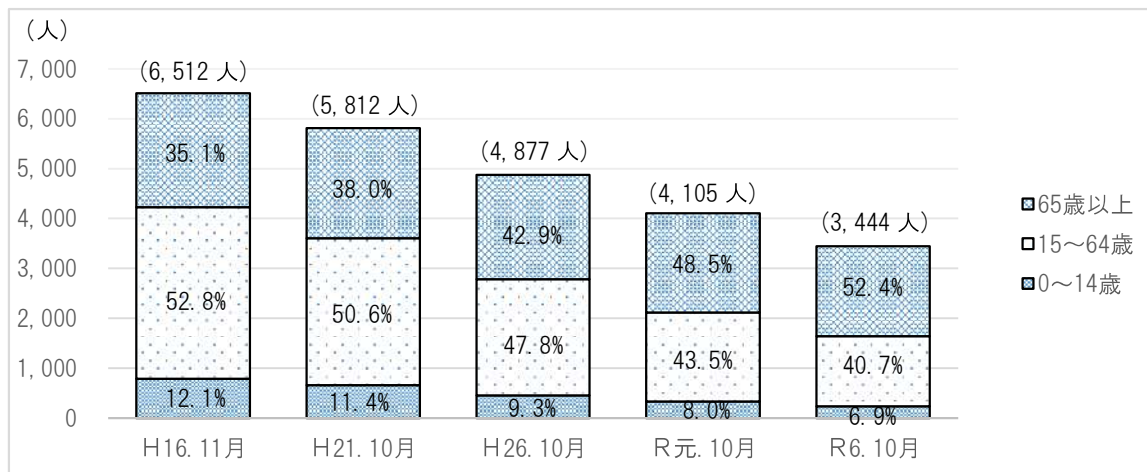
合併後は、改新交流センターの整備や各地域に設立された地域コミュニティ協議会の活動支援など、地域活動の充実を図りました。また、平成３１年４月には桜島地域全体を所管する桜島支所を設置し、災害時における指揮系統の一元化による防災体制強化を図るとともに、地域一体となった地域振興への取組を支援し、魅力の発信や地域間交流に取り組んでいます。

さらに、地域の特性を生かした桜島ならではの教育を目指し、地域内のすべての小・中学校を統合した義務教育学校「桜島学校」が設置される予定です。

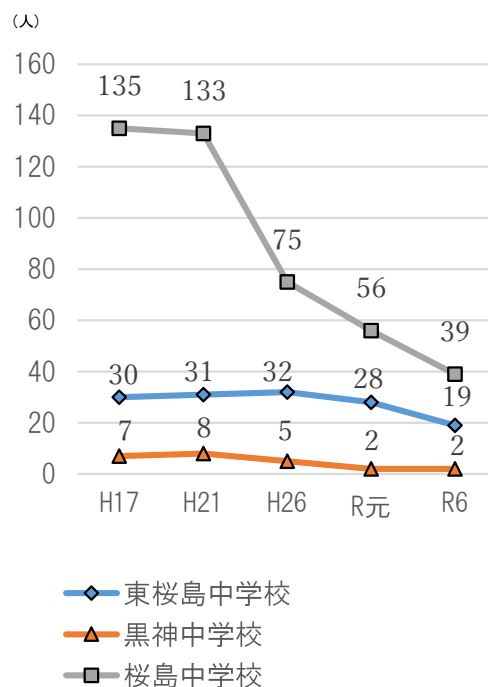
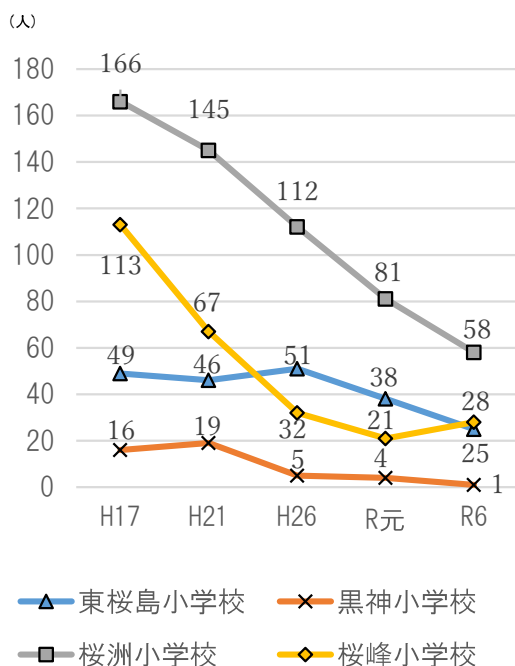
(2) 人口等の推移

地域内の人口は、合併時と比較するとほぼ半減し、人口減少が急速に進んでいます。特に、人口に占める６５歳以上の割合は５０％を超えており、全市で最も高齢化が進む地域となっています。また、児童生徒数もほとんどの学校で減少傾向にあります。

○住民基本台帳人口の推移



○児童・生徒数の推移（各年５月１日現在）



(3) 主な地域資源

桜島の特産物（※左上から時計回りに桜島小みかん、桜島大根、ビワ、椿油）



火山と共存して生産される桜島の特産物。小さい果実の中に香りと甘さが詰まった「桜島小みかん」、鹿児島を代表する伝統野菜である「桜島大根」は全国的に有名です。

また、海に見える斜面で栽培されるみずみずしい桜島の「ビワ」、降灰に負けず赤い花を咲かせる椿から搾油される桜島の「椿油」など、農作物の生産には厳しい環境の中でも大切に育てられ、桜島の産業として受け継がれています。

桜島フェリー



令和６年に運航開始から９０年を迎え、長年にわたり人々の暮らしを支える桜島フェリー。生活の重要なパイプラインの役目だけでなく観光ルートの主役として活躍しています。桜島地域と鹿児島市街地を１５分で結ぶ海のバイパスとして多くの人々に利用されています。

地域の飲食店（写真：さくら市） 	人口減少や高齢化による事業休止などにより、地域内の店舗数は減少しているものの、近年はカフェやベーカリーショップ、キッチンカーなどの新たな店舗の開店も見られ、地域の資源となっています。 また、地域の飲食店等が連携して島内でマルシェを開催するなど新たな動きがみられます。
新たな宿泊施設（写真：i k oてらす） 	自然湧出する温泉を備えた既存の観光ホテルのほか、近年では桜島を体感できるゲストハウスや民泊施設が開業しており、地域住民と観光客がつながる新たな交流の拠点として期待されています。 令和6年2月に完成した「i k oてらす」は、空き家を改装したゲストハウスで、桜島の暮らしや文化などの魅力体験や、移住を検討するための施設として活用されています。
豊富な観光資源 	桜島の火山や溶岩原など独自の貴重な自然環境や景観資源、温泉など豊富な観光資源を有し、毎年多くの観光客が訪れています。

2 令和5年度・6年度の実施内容

事業の展開	事業内容
(1) 地域の飲食店等の連携による魅力発信	地域の飲食店等が連携し、デジタルパンフレットやSNS等を活用した情報発信の強化を図るとともに、イベントを開催しました。
(2) 桜島の魅力体験に取り組む地域団体の支援	関係人口・定住人口の拡大につなげるため、地域団体が行う桜島の暮らし・文化などの魅力体験やお試し移住を含む長期滞在の取組を支援しました。
(3) デジタル化による生活利便性の向上	デジタルデバイドの解消を図るために、地域のデジタルサポーターを養成し、高齢者等向けデジタル教室を実施しました。

3 地域懇話会における主な意見や事業に対する評価等

- 桜島の椿油は特産物の一つだと思う。油単体でも価値があるが化粧品や食用品への加工など需要があるが供給が少ない。
- 椿も含め桜島で小規模の農業をしている方は本業にはできない。加工して販売までできるようになれば生産量を増やせる。
- 飲食店の連携イベントは事業者主体で自走化するためのシステムを構築する必要がある。
- 島外イベント出店は桜島の魅力発信をするいい機会だが事業者個人では限界がある。島内イベントの回数を増やすなど参加しやすい環境を整え、定期的に開催すべきである。
- デジタルの活用で利便性が高まると高齢者等の生きがいにもつながってくる。利便性と生きがいが上手く重なるような展開ができるとよい。
- デジタル使用に慣れてくると個々で理解できないところが違ってくる。それぞれのレベルに合わせてサポートしていく必要がある。
- 経済的な事情でデジタルに対応できない方々もいると思う。取り残さないようにするにはどうするか考えなければならない。
- マルシェの開催を知らない方々もいた。情報発信の方法を工夫すべきだ。
- とてもバランス良く3つの事業ができている。将来的にはすべてがリンクするようにしてほしい。
- 懇話会から携わり、事業の成果が上がったことがうれしかった。

4 管内の課題

- (1) 人口減少や高齢化等により既存の飲食店や観光等の事業者が減少する一方で、新たな店舗の開業が見られますが、事業者のつながりの機会が少なく、十分に連携できていません。
- (2) 地域内の店舗減少や路線バス、桜島フェリーの減便等により、高齢者等の買い物や通院など、生活における利便性が低下しています。
- (3) 豊富な観光資源を有している一方で、訪問者が桜島の暮らしや文化などの魅力を体験する場が少なく、地域の魅力が十分に生かされていません。
- (4) 桜島小みかん、桜島大根、ビワなど特産農産物を生産していますが、農家の高齢化や減少により、経営規模が縮小し使われていない農地が増加しています。

5 課題解決に向けた方向性等

(1) 目標

地域の活力とにぎわいを創出し、地域住民が桜島地域に住んでよかった、住み続けたいと思える地域を目指します。

(2) 方向性

地域の事業者間の連携を図り、自走できる体制の構築に取り組むとともに、地域資源や空き家などを活用した桜島の魅力を体感するコンテンツを提供し、関係人口の拡大につなげます。また、デジタルを活用した生活利便性の向上を推進します。

(3) 事業の展開

①地域の飲食店等の連携による魅力発信

島内でのマルシェの開催や各種イベントへの参加で連携を活性化します。また、SNSなどを活用した情報発信やマルシェ開催など、飲食店等が自ら魅力を発信できる体制を構築します。

②桜島の魅力体感コンテンツの創出

桜島地域で活動する地域団体や事業者などによる地域資源を生かした桜島の魅力を体感するコンテンツの創出を支援します。

③デジタル化による生活利便性の向上

高齢者などのデジタル弱者へデジタルツールの知識の向上と活用能力を高めるための支援に取り組み、デジタルデバイドの解消と生活利便性の向上を図ります。

